

日本からの食品輸入規制の緩和に関する要望

上海出入境検査検疫局御中：

平素より在中国日系企業の活動に対して多大なご支援を頂き、感謝申し上げます。

2011年3月に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により、日本からの輸入食品は、多くの品目で事実上の輸入停止に陥っております。

原発事故に由来する食品中の放射性物質は、日本国内では、安全な食品の流通を確保するための徹底した管理体制を実施しているため、極めて低い水準にあります。このような日本国内の現状を踏まえ、世界各国では、日本食品の輸入規制の緩和が進んでおります。

2012年12月に日本貿易振興機構の実施した上海市及びその近郊の消費者を対象とした好きな外国料理に関するアンケート調査によると、欧米、アジア、アフリカ各国の料理の中で、日本料理をあげる声が最も大きく（約25%を占める。）、上海の方々にとって日本料理は親しみのあるものになっております。輸入規制が緩和されれば、上海の市民に多彩で豊富な日本食材を提供することができるようになり、市民の食文化がより一層充実し、食生活の質の向上にもつながると期待されます。さらに、より多くの日本の輸入産品が中国市場で流通すれば、物流や衛生管理分野で日中両国企業の民間協力が活性化し、中国国内のコールドチェーンや食品管理システムが一段と改善されるなどの効果も期待されます。

このような点を踏まえ、以下の3点について要望いたします。

1. 福島第一原子力発電所の事故に起因する輸入規制について、日本政府と継続中の協議を進めていただき、現在10都県産の食品及び飼料の全面的な輸入禁止という世界でも類を見ない厳しい措置が執られています。科学的なデータに基づき、合理的な範囲まで規制を緩和するようお願いいたします。
2. 現在のところ、福島第一原子力発電所の事故に起因する輸入規制以外にも、口蹄疫の発生を受け輸入が規制されている乳製品、口蹄疫・BSEが原因となっている肉類、指定工場での精米、くん蒸処理が求められている米、過去に輸入実績がないなどの理由からリンゴ、ナシのみが許可されている野菜・果物等の青果物といった品目で輸入規制が存在します。これらの輸入規制についても緩和措置の検討をお願いいたします。
3. 2013年9月から、上海市では、全国に先駆けて自由貿易試験区が設置され、国際水準に合致した貿易・投資ルールの整備のため、輸入貨物の区内搬入手続きや検査検疫手続きの簡素化が進展していると承知しております。当クラブとしても、上海の自由貿易試験区設立を歓迎し、順調に改革が進むよう協力して参りたいと考えております。こうした中、上海の自由貿易試験区での試行措置の一環として、日本からの産品について、輸入手続きに係わる規制の緩和・廃止を実験的に進めていただくことを要望いたします。

上海日本商工クラブ